言語学とセクシュアル・マイノリティー（ＳＯＧＩ）

箕浦 信勝

言語学とＳＯＧＩ（性的指向（ＳＯ）と性自認（ＧＩ）に関する少数者）というテーマだと、皆さん、オネエタレントなどの喋り方のことをすぐに思い浮かべるだろうか。本稿では社会言語学で扱いうる「そこ」ではなく、言語人類学的な考察から始める。

言語人類学では、言語学と文化人類学の両方の道具立てを持ち寄って、言語と文化にまたがる様々な事柄を明らかにすることが目的となる。言語人類学の根底にあるのは、人間が分類する生き物であり、その際に言語を使っているという考え方である。分類して、（単語等による）ラベルを付ける前には、我々を取り巻く言語外現実、また森羅万象は連続しているものであり、ラベルを付けて分類することで初めて、それぞれのカテゴリーが別々のものとして認識されるようになる。

一般常識的には、女と男、またその両者の様々な属性は、二分法で問題ないように感じられる。しかし、ＳＯＧＩを見ると、その一見二分法的に見えるものが、実は連続体の上にあることがわかる。ツイッター上のセクシュアルマイノリティ用語集bot @s_minority_botが不定期に流してくる定義が、割と包摂的であるように思える。【セクシュアル・マイノリティ】一般的に想定される性のあり方とは異なるセクシュアリティを持つ人のこと。①生物学的な性別と性自認が一致している。②恋愛感情と性的欲求を持ち得る。③ ②の対象は異性のみ。①～③に当てはまらないものがあるもの。」①の生物学的な性別と性自認（自分が自分の性をどう見るか、また社会の中でどう位置付けるか）が一致していないとは、まず女と生まれたけれども、自分は男だと認識する場合、またその逆がある。その人たちはトランスジェンダー（以下、トランス）と呼ばれる。そこに近年は、女でも男でもない、女でも男でもある、中性である、無性である、揺らいでいる、日によって違う、決めたくないなどの、性自認（そしてその表現）のグラデーション（以下、連続体）があることが知られている。女、男と決めたくない人々は、ノンバイナリー（ジェンダー）と呼ばれたり、日本ローカルにはXジェンダーと呼ばれたりする。新たなカテゴリーにラベルが付けられ一部の人に認知されている。②の恋愛感情と性的欲求を持ちうるか否か。これも1か0かということにはならないが、どちらかというと恋愛感情を持たない人はＡｒｏ、性的欲求を持たない人はＡｃｅと呼ばれる。③のＳＯＧＩのＳＯとして恋愛感情と性的欲求の対象が異性のみの異性愛、対象が同性のみという同性愛、両方という両性愛という用語は衆知のものだが、ここにも①の連続体であるジェンダーの全体が恋愛感情、性的欲求の対象となる人、一部が対象となる人など様々で、また恋愛感情と性的欲求の対象が一致しない人などもおり単純な二分法では語れない。

他方生物学的性が連続体であるということは安易に言えない。性分化疾患（ＤＳＤ）を持つ多くの人は、女として、あるいは男としてひっそりと暮らしている。他方、自分の性をどう見るか、社会の中でどう位置付けるか、そして社会の中でどう表現するかに関しては連続体がある。ユーロビジョンという歌唱コンテストで、一九九五年にイスラエルからエントリーしたDana Internationalは男から女へと性別移行をした二分法的なトランスである。二〇一四年にオーストリアからエントリーしたConchita Wurstは立派な髭を蓄えた女装であり、二分法では捉えられない。

冒頭のオネエタレント等の話し方に戻るが、観察できるためには、話し方（そして容姿、振る舞い）が多数派と違って見えることが前提となる。トランスの人の中にも見えない人たちがいる。それは性別移行が完璧で生まれ付きの女、男と区別が付かない（パスする）人たちである。ＳＯの場合も、カミングアウトしてこなければ、あるいは誇張して誇示して来なければ分からない、つまり多数派と区別が付かない人たちがいる。見えるか見えないかも1か0かではない連続体だが、社会言語学的にＳＯＧＩの言語（社会方言）を吟味しようとした場合、見えない人は対象にすることができないということを前提に考えないといけない。

みのうら・のぶかつ　総合国際学研究院准教授　言語学

文献案内

宮岡伯人『言語人類学を学ぶ人のために』世界思想社、一九九六年（特に第一章）
神谷悠一、松岡宗嗣『ＬＧＢＴとハラスメント』集英社新書、二〇二〇年
北丸雄二『愛と差別と友情とＬＧＢＴＱ＋：言葉で戦うアメリカの記録と内在する私たちの正体』人々舎、二〇二一年